植物研究雜誌 第二卷 第三號

大正八年十一月三十日

# ○日本植物學界ノ世界ニ於ケル地位（承前）

牧野富太郎

第六ニハ前ニモ既ニ言ッタ通リ我邦ニハ標品ガ極メテ少ナイノデアルガ是レハ世界ノ標品ガマダ充分ニ我日本ニハ集ッテ居ナイノデアル、今試ニ茲ニ一ノ植物即チ或種（スペシース）ノ植物ガアルトスル是レヲ歐洲並ニ米國ノ學者ナドノ著シタ書物ニ書イテアル文章ト照合シテ見ルト其實物ト文章トガシックリト合ハナイモノガ往々アルガ然シ其レハ實ハ同種デアッタト云フコトハ能クアルコトデアル例ヘバ種ガ同ジデモ高山ニ生ズルモノト平地ニ生ズルモノトハ其形態ガ非常ニ異ッテ居ルモノガ多イ從テ其記載ノ上デ多クノ異點ガ生ジテ居ル然シ文章上デハ同種トハ判斷ノ出來ナイモノデモ標品ト標品トヲ調ブレバ其レガ同一種デアルト云フコトガ直グ判ルト云フ様ナモノモ頗ル多イ此様ナ譯柄カラ植物ヲ比較シテ研究スルニハ世界ノ各方カラノ標品ガ入用デアル中ニハ日本ニ産スル植物デ濠洲ニモ生ズルモノガアル又亞弗利加ニモ見ルモノガアル又南米ニモ産スルモノガアル此等ノ品ヲ互ニ彼此照合比較シテ始メテ正確ニ其種類ヲ定ムル事ガ出來ル植物ノ種類ヲ檢定スルニハ其間ニ此ノ様ナ事情ガアルノデアルカラ種類研究上此ニ始メテ標品ガ非常ニ必要ニナル今日日本デハ前述ノ通リ假令標品ガ非常ニ缺乏シテ居ッテモ誰モ一向ニ集メヤウトハシナイ今之ヲ集メルニハ勿論少ナカラヌ金ガ入ルガ然カシ遣リ様ニヨッテハサウ餘計ニ金ガカカラヌ様ナ集メ方モナイデモナイ即チ其方法ハ標品ノ交換デアル此方法ニヨレバ頗ル手輕ニ之ヲ集メルコトガ出來ル此様ナ便法ガアルニモ拘ハラズ當事者ハ其事ニ關シ一體ニ不熱心デアル支

那、直グオ隣リノ支那ノ植物ハ英國、獨國、佛國並ニ露國等ノ學者ガ盛ンニ研究シ從テ其國々ニハ其標品モ大分ニ集マッテ居ルガ之レニ反シテ一番近イ我日本ニハ同國產植物ノ標品ガ非常ニ少ナイ今日東京ノ理科大學ニ在ルモノハ英國ノキウ植物園カラ贈ッテ來タモノデ是レハ同國人ヘンリー氏ガ曩ニ支那デ採集シタモノノ一部デアル全體日本ノ植物ト支那ノ植物トハ互ニ深キ關係ガアッテ親類同志ノ樣ナモノデアル其レ故日本產ノ植物ヲ能ク研究スルニハ是非トモ支那ノ植物ト比較スルノ必要ガアル今此必要缺クベカラザル標品ガ我邦ニナイカラ我邦ノ研究者ハ始終誠ニ不自由ヲ感ジツヽアルノデアル此ノ如ク支那植物ノ標品ガ無イバカリデナク又西比利亞、馬來方面、印度、布哇、亞米利加等ノモノモ殆ンド無イト言ッテモヨイ位デアル此ンナ事デハトテモ駄目デアル、ドウシテモ今日ノ樣ナ標品貧乏ノ境ヲ早ク脫却シテ疾ク英國ヤ獨逸ナドノ樣ニ世界ノ標品ヲ集メナケレバドウシテモ根本的ナ完全ナ研究ハ出來ヨウ筈ガナイ今日デハ大學ノ卒業生モ可ナリアルシ又世間ニハ植物ノ好キナ人モ亦少ナクナイカラ互ニ協力シテ早ク東洋一ノ標品蒐集場ヲ出現サセンコトヲ私ハ我日本ノ爲メニ切ニ願ッテ止マナイ私ハ眞ニ我日本ノ植物學ノコトヲ憂ヒテ力ヲ之レニ致シテ呉レルモノガ世間ニ極メテ鮮ナイノヲ常ニ甚ダ遺憾ニ思フテ居ル

（未完）

## ○樺太屬島ノ樹木

理學士　小松春三

樺太ニ二屬島アリオコック海ノ海豹島、日本海ノ海馬島是レナリ海豹島ハ一ニチュレニ又ハロッペント稱シ北知床岬ノ南方ニアリテ岬端トハ相望ノ間ニアリ數個ノ海豹岩點々トシテ其間ニ續ケリ東北ヨリ西南ニ伸ビ長サ四町幅二町ニ及バズ周圍僅々十數町ニ過ギザル一小礁島ナリ海岸ハ段丘ヲナシ中央ハ五六十尺屹立セリ頂ハ平